

第25回日・韓・中ジュニア交流競技会茨城大会

開催要項

1. 目的

アジア近隣諸国との青少年スポーツ交流を促進し、相互理解を深めるとともに、各国のジュニア層の競技力向上を図るため、韓国及び中国の競技者を日本に招聘し、競技会を開催する。

2. 開催期日

平成29年8月23日(水)～29日(火) 7日間

3. 開催地

日本 茨城県

4. 主催

公益財団法人日本体育協会、公益財団法人茨城県体育協会、茨城県教育委員会、
公益財団法人日本陸上競技連盟、公益財団法人日本サッカー協会、公益財団法人日本テニス協会、
公益財団法人日本バレーボール協会、公益財団法人日本バスケットボール協会、
公益社団法人日本ウエイトリフティング協会、公益財団法人日本ハンドボール協会、
公益財団法人日本ソフトテニス連盟、公益財団法人日本卓球協会、
公益財団法人日本バドミントン協会、公益財団法人日本ラグビーフットボール協会

5. 共催

水戸市、日立市、石岡市、高萩市、笠間市、ひたちなか市、常陸大宮市

6. 主管

第25回日・韓・中ジュニア交流競技会茨城大会実行委員会、
一般財団法人茨城陸上競技協会、公益財団法人茨城県サッカー協会、茨城県テニス協会、
茨城県バレーボール協会、一般社団法人茨城県バスケットボール協会、
茨城県ウエイトリフティング協会、茨城県ハンドボール協会、茨城県ソフトテニス連盟、
茨城県卓球連盟、茨城県バドミントン協会、茨城県ラグビーフットボール協会

7. 後援

茨城県、水戸市教育委員会、日立市教育委員会、石岡市教育委員会、高萩市教育委員会、
笠間市教育委員会、ひたちなか市教育委員会、常陸大宮市教育委員会、
公益財団法人全国高等学校体育連盟、茨城県高等学校長協会、茨城県高等学校体育連盟、
茨城県高等学校文化連盟

8. 参加国・開催地選手団

日本、韓国、中国、茨城県

9. 選手団の編成

日本選手団	245名
韓国選手団	245名
中国選手団	245名
茨城県選手団	245名
合 計	980名

<選手団編成表>

競技	役員/ 指導者	選手			合計
		男子	女子	小計	
陸上競技	3	11	11	22	25
サッカー	3	18	—	18	21
テニス	3	4	4	8	11
バレーボール	5	12	12	24	29
バスケットボール	5	12	12	24	29
ウエイトリフティング	5	8	7	15	20
ハンドボール	5	14	14	28	33
ソフトテニス	3	6	6	12	15
卓球	3	5	5	10	13
バドミントン	3	6	6	12	15
ラグビーフットボール	4	22	—	22	26
本部	8	—	—	—	8
合計	50	118	77	195	245

10. 実施競技

11競技

陸上競技、サッカー、テニス、バレーボール、バスケットボール、ウエイトリフティング、ハンドボール、ソフトテニス、卓球、バドミントン、ラグビーフットボール

11. 出場者

参加者は所属選手団の国籍を有する者とし、競技出場者については18歳以下の者とする。

<日本選手団> 日本・中央競技団体が推薦するチーム・個人とする。

<韓国選手団> 韓国・大韓体育会が推薦するチーム・個人とする。

<中国選手団> 中国・中華全国体育総会が推薦するチーム・個人とする。

<茨城県選手団> 茨城県の競技団体が推薦するチーム・個人とする。

12. 日程

8月23日(水) 韓国・中国選手団来日、日本選手団・茨城県選手団(サッカー・ラグビー)集合
監督・審判会議(サッカー・ラグビー)

8月24日(木) 日本・茨城県選手団(9競技)集合、競技(サッカー・ラグビー)、練習(9競技)
監督・審判会議、開会式

8月25日(金) 競技・練習

8月26日(土) 競技・練習

8月27日(日) 競技、フレンドシップ交流

8月28日(月) 日本選手団・茨城県選手団解散、視察研修(韓国・中国選手団)、3カ国代表者会議

8月29日(火) 韓国・中国選手団離日

14. 競技会場

No.	実施競技	会場市	競技会場
1	陸上競技	水戸市	ケーズデンキスタジアム水戸
2	サッカー	ひたちなか市	ひたちなか市総合運動公園 陸上競技場, スポーツ広場
3	テニス	水戸市	水戸市総合運動公園テニスコート
4	バレーボール	水戸市	茨城県武道館
5	バスケットボール	常陸大宮市	常陸大宮市西部総合公園体育館
6	ウエイトリフティング	高萩市	高萩市文化会館
7	ハンドボール	ひたちなか市	ひたちなか市総合運動公園総合体育館
8	ソフトテニス	笠間市	笠間市総合公園テニスコート
9	卓球	日立市	日立市池の川さくらアリーナ
10	バドミントン	石岡市	石岡市石岡運動公園体育館

11	ラグビーフットボール	水戸市	水戸市立サッカー・ラグビー場
----	------------	-----	----------------

15. 競技方法

(1) 競技規則及び審判員

- ・最新の国際競技連盟規則による。但し、各国間相互の合意をもって変更することができる。
- ・審判員、ジャッジ及び技術役員は全競技日本側で行う。

(2) 各競技の方法・規則

① 陸上競技

競技は2日間とし、各日全種目1回競技を行う。なお、競技日の間に休養日を挟む。

実施種目（男子12、女子12）

男子:100m、200m、400m、1500m、110mハードル、4×100mリレー

走高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、やり投

<ハードルの高さ99.1cm(ジュニアハードル) / 砲丸の重量6kg>

<円盤の重量1.75kg / やりの重量800g>

女子:100m、200m、400m、800m、1500m、100mハードル

4×100mリレー、走高跳、走幅跳、砲丸投、円盤投、やり投

<ハードルの高さ84cm / 砲丸の重量4kg>

<円盤の重量1kg / やりの重量600g>

※選手は2種目にエントリーできる。2種目以外にリレーにエントリーできる。

※各種目とも1回で行う。但し、走幅跳・三段跳・砲丸投・円盤投・やり投は6回の試技を行う。

② サッカー

- ・総当たりリーグ戦
- ・前・後半45分 延長戦なし

③ テニス

- ・総当たり戦
- ・男子種目 女子種目のみ
- ・5試合(単-単-単-単-複) 1試合3セットマッチ
勝敗に関わらず5試合行うものとする。

④ バレーボール

- ・総当たり戦
- ・5セットマッチ(6人制)
- ・ラリーポイント制 得点25点(第5セットについては15点)

⑤ バasketボール

- ・総当たり戦
- ・4ピリオド制、各ピリオド10分 延長戦なし

⑥ ウェイトリフティング

競技は、各階級1回のみ行う。

- ・男子8階級(56kg、62kg、69kg、77kg、85kg、94kg、105kg、+105kg)
- ・女子7階級(48kg、53kg、58kg、63kg、69kg、75kg、+75kg)
- ・各国チームは各階級において、1名の選手を登録するものとする。
- ・スナッチ、クリーン&ジャークの2種目合計

⑦ ハンドボール

- ・総当たり戦
- ・前・後半30分 延長戦なし

⑧ ソフトテニス

- ・総当たり戦
- ・男子種目 女子種目のみ
- ・5試合(複-単-複-単-複) 3勝制 1試合は単7ゲームマッチ・複9ゲームマッチ
勝敗に関わらず5試合行うものとする。

⑨ 卓球

- ・総当たり戦
- ・男子種目 女子種目のみ

- ・5試合(単―単―複―単―単) 1試合は11ポイント 3ゲーム先取
勝敗に関わらず5試合行うものとする。

⑩ バドミントン

- ・総当たり戦
- ・男子種目 女子種目のみ
- ・5試合(単―複―単―複―単) ラリーポイント方式(21点 2ゲーム先取)
ただし、勝敗に関わらず5試合行うものとする。

⑪ ラグビーフットボール

- ・総当たり戦
- ・前・後半30分 延長戦なし

16. その他

- (1) 参加者は、国際交流の意義を理解し、開催国の生活文化を理解するとともに、友愛の念を持って他の参加者と積極的に交流することが求められる。
- (2) 参加者は、本競技会参加に際し、フェアプレーの行動・精神を实践すること。国際的なマナーを守り、競技会においては規則を遵守しなければならない。特に、試合中の審判の裁定は絶対のこととし、これを不服として不満の態度を示すこと、抗議をすることがあってはならない。
- (3) 選手は大会期間中、選手団ユニフォームを着用すること。
- (4) 下記3競技の練習球等は開催国で準備・提供し、その他の8競技は各国で持参すること。
①バレーボール(男女各チームにボール12球・ボール籠)、②ソフトテニス競技(試合球・練習球男女チーム合計20ダース)、③テニス競技(練習球として男女チーム合計10ダース)。
- (5) 韓国・中国の選手団は各国で、傷害保険へ加入すること。